

# 「和」小国中学校便り



No.12  
2月号

小国町立小国中学校  
令和7年1月31日(金)  
文責 真嶋 剛

## 『春へ向けてラストスパート』受験がスタートしました！

9年生にとって正念場。受験が1月からスタートしました。先日22日には熊本市内の私立高校の専願・奨学入試がありました。2月3日には、公立の前期(特色)選抜、連携型中高一貫教育に係る選抜が行われます。9年生は、受験当日に向け、勉強はもちろん、面接の練習や小論文、プレゼンテーションの準備など頑張っています。これから合否(内定を含む)が通知されたり、私立一般、公立後期(一般)選抜が行われたりと続いていきます。希望する進路が実現できるようこれからも9年部を中心に学校全体で支援していきます。なお、7年生が受検をする令和9年度入試から、公立高校の選抜方法が変更になり、全員が5教科の学力検査を受検すること、入試日が一本化され、学力検査のみでの受検と、学校学科に応じた選抜方法による受検が同一日に行われます。詳細はこれから検討されたうえで、出される予定です。

## 『橘木勇弥先生が選ばれました』～R8 熊本県公立学校教員募集用ポスター

令和8年度(再来年度)採用の熊本県公立学校教員募集のポスターと、パンフレットの表紙に、橘木勇弥先生が掲載されています。12月に県から依頼を受けた業者が来校され、撮影会が行われました。このポスターには、毎年、県内の若手教員から2名しか掲載されません。橘木先生は県内の若手教員の代表として掲載されています。教員の仕事は、報道等でもあるとおり、大変な部分もありますが、橘木先生をはじめ、先生方には生徒のためにやりがいを持って指導にあたっています。子どもたちの中からも、将来、先生方の姿を見て、教員の道を志す生徒がいたらうれしく思います。

## 『感謝!!』 古希のお祝いに伴う寄贈がありました



1月28日(火)に木田様をはじめ3名の方が来校され、古希のお祝いに伴い小中学校と町図書館へ本購入費に充ててほしいということで、寄贈いただきました。当日は、小中合同で贈呈式を行い、中学校からは生徒会長と、図書委員長が代表で参加しました。木田様から本を読むことの大切さ等について話があり、代表の2人からお礼の言葉を述べました。いただいた寄付は、今後図書館の本の購入に充てたいと思います。



## 『ようこそ！ホッケー男子日本代表 穴井善博監督』～教育講演会

### 2月の主な行事

- |        |                         |
|--------|-------------------------|
| 3日(月)  | 公立前期(特色)・中高一貫教育に係る入学者選抜 |
| 4日(火)  | 新入生・保護者説明会              |
| 5日(水)  | 9年学年末テスト(～7日)           |
| 5日(水)  | 午前中授業(給食あり)             |
| 7日(金)  | 7・8年テスト前部活動停止(～13日)     |
| 10日(月) | 5時間授業                   |
| 12日(水) | 7・8年学年末テスト(～14日)        |
| 13日(木) | 5時間授業                   |
|        | 私立一般入試(熊本市他)            |
| 14日(金) | 私立一般入試(熊本市他)            |
| 17日(月) | 学校公開日、9年性教育講演会          |
| 18日(火) | 専門委員会                   |
| 20日(木) | 授業参観⑤・PTA総会・懇談会         |
| 25日(火) | 校内人権集会③④                |
| 26日(水) | 避難訓練(火災)⑥               |
| 27日(木) | 学級生徒会、生徒議会              |

1月30日(木)の5・6限目に本校出身でホッケー日本代表の穴井善博監督をお招きし、「夢への挑戦」と題して教育講演会を行いました。「挑戦」「努力」「仲間」「感謝」、「失敗は途中経過」など、経験を通して子どもたちの心に響く講演でした。当日は、熊日、おぐちゃん、TKU、KABからも取材があり、最後は学年毎に写真を撮りました。小国町はホッケーの町として中・高でホッケー部が活躍していますが、日本代表監督やオリンピックの代表が小国から出ているというのは、生徒にとっても誇りであり、励みになることと感じています。穴井監督には、中国遠征等、多忙なスケジュールの合間にねつて来ていただいています。土曜日には町のホッケー教室も開催されるそうですが、子どもたちには感謝の気持ちを持ち、講話を人生の大切な糧として活かして欲しいと思います。

